



第 7 号
平成 28 年盛夏
発行
真龍山大雄寺
北見市留辺蘂町宮下町 109
TEL 0157-42-2418
FAX 0157-42-2748

住職挨拶

早いものでお盆の時期となりました。今年はお知らせしている通り、ついに庫裡改築工事が始まりました。完成予定は年内であります。皆さんがお盆のお参りで来寺された時には、少しは完成するイメージを湧いてもらえるのではないかと思います。

今年も半分が過ぎ、上半期を振り返るだけでも熊本地震、世界各地のテロ、イギリスのEU離脱と社会情勢が落ち着く暇はありません。TVで専門家の方が、心に余裕が無くなると自己保身に走り、他者を寄せ付けない排他主義に傾きやすくなると言っておりました。簡単に言うとは皆一緒に頑張っていこうという考えが、我先にとという考えに変わっていつてしまう。



昭和 10 年頃の本堂

道元禅師の教えの一つに「同事」といふのがあります。自分と他者を区別する事なく分け隔てなく接しなさい。他人と足並みを揃えることは煩わしい事もあるが、そうする事で自分一人では味わえない喜び・幸せを感じる事が出来ると、こういう教えです。
「喜びは人に伝えて倍となり、悲しみは人に伝えて半減する」という言葉があります。経済至上主義に行き詰まりが見えてきた今こそ、それ以外の価値観、モノの見方が必要になってくる時代になってきたんだらうと思えます。

合掌

お寺の動き

橘家富蔵師落語会

平成二十七年九月二十三日、例年の秋彼岸会法要を行い、終わって引き続き橘家富蔵様を招き「秋彼岸会落語会」を開きました。お参り以外にもお寺に足を運んでもらいたいという事で、数年前より始めた行事の一環。常呂町出身という縁もあって、今回快く引き受けて頂きました。高座もこちらで用意した手作りだったりと全てが手探りでしたが、沢山の方のご参加頂き、笑い涙の絶えない落語で楽しいひと時を過ごしました。



境内整備・会館庫裡改築 進捗状況

記帳額 (365 人記帳)
8,666 万円

納入額
7,408 万円

平成 28 年 7 月 1 日現在

平成二十八年度役員・世話人

住職	米田憲人	世話人	安藤祐太郎 (上町)
総代	戸田健司 (大富)	世話人	佐川和則 (旭南)
世話人	小熊正三 (旭中央)	世話人	渋谷恒彦 (秋田)
全	佐々木勝太郎 (豊金)	全	工藤良二 (宮下)
全	木幡和清 (旭中央)	全 (監査)	荒木正憲 (旭一区)
全	吉村義正 (北見市)	全 (監査)	尾関昭夫 (北見市)
全	井上勝昭 (旭三区)		

大雄寺行事予定

8 月 16 日	孟蘭盆施食会	
	新亡施食会	午前 11 時より
	一般施食会	午前 11 時半より
9 月 23 日	秋彼岸会	午後 1 時より
10 月 17 日	成道会	正午 12 時より
		今年度に限り中止
3 月 21 日	春彼岸会	午後 1 時より
又は 20 日		

仏事

Q & A

知ってるつもりでも、わからないことが多い仏教用語・作法もあるようです。そこでQ&Aのコーナーを設けました。

Q 生前戒名という言葉を目にしたんですが、どういう意味なのでしょうか？

A 戒名とは、仏教において仏門に入った証、戒律を守る証として与えられる仏弟子としての名前です。

「戒名とは、本来生前に授かるものです」といいますと、驚かれる方がいます。戒名は、亡くなってももらうものと考えておられる方が多いからです。

しかしながら、仏教は亡くなってからの教えではありません。避けては通れない生老病死の苦しみの中、いかに心穏やかに過ごす事が出来るかという、今を生きる私たちの教えであります。そのために、戒律を誓い仏教徒として歩むのです。左記に守るべき戒を紹介したいと思います。

三帰戒（さんきかい）

- 南無帰依仏（仏さまに帰依し、拠りどころとします）
- 南無帰依法（仏さまの教え（法）に帰依し、拠りどころとします）
- 南無帰依僧（仏さまの仲間（僧侶）に帰依し、拠りどころとします）

十重禁戒（じゅうじゅうきんかい）

- 一、不殺生戒（生命あるものをむやみに殺さない）
- 二、不偷盜戒（与えられていないものを手にしてはならない）
- 三、不邪淫戒（道はずれた愛欲を犯してはならない）
- 四、不妄語戒（偽りの言葉を口にしてはならない）
- 五、不酤酒戒（酒に溺れて生業を怠ってはならない）
- 六、不説過戒（他人の罪や過ちを責めてはならない）
- 七、不自讃毀佞戒（自分を誇り、他人を貶してはならない）
- 八、不悭法財戒（物でも心でも施すことを惜しんではならない）
- 九、不瞋恚戒（怒りに燃えて、自分を見失ってはならない）
- 十、不謗三宝戒（仏・法・僧の三宝を謗ってはならない）

心のたすき

「思い出すこと」

上町 島 道子

一昨年の夏、永代供養塔が完成されましたので、さっそく申し込みさせて頂き、その年の十一月に実家の父母と弟三人の納骨を致しました。

終戦の年の前後に満州（現在の中国東北部）にて母と弟達が亡くなり、警察官であった父はシベリアに抑留されてしまったので、父の次兄である伯父（当時日本文学校の教師）に連れられ引き揚げてまいりましたが、私の荷物といえば骨箱ばかりであったことを思い出します。

その後、父の長兄である伯父の山田家（当時木材加工等経営）にお世話になりましたが、連れ合いである伯母には子供八人と住み込みの従業員数名の大家族でありながら、義理の姪の私の為に何から何まで気配りして頂き、結婚後も色々助けて頂きました。この事を知っているのはもう誰もいないかも知れませんが、伯母には満足にお礼を言えなかったのが心残りです。

父は抑留最後の帰還者として昭和三十一年に留辺蘂に帰ってきましたが、六十代で亡くなりました。私は一人になりましたが、父母それぞれに兄弟や姉妹が多かったので、いとこ達が沢山いて今でも交流があり、結婚した夫は九人兄妹の長男だったので、その弟妹とも良い付き合いが出来ている事は大きな幸せであります。

夫が四十五歳で他界しましたがその後、ある団体職員として二十五年間、何かと無事に務められたのも、関係する多くの方々のご好意によるものと感謝しております。色々な事が有り過ぎた人生だったのかもしれないですが、幸せな事も沢山沢山あったのだと気付くこの頃です。

庫裡改築工事地鎮祭

平成二十八年五月、庫裡改築工事にあたって旧家屋の解体が終わり、新しい庫裡の基礎工事に入る前に地鎮祭を執り行いました。古来から伝わる作法の下、この土地を清め、お守りされている土地神を祀り、工事安穩を祈願致しました。



編集後記

▼ 工事が始まるとやはり計画通りに行かないことも多く悩みは尽きませんが、檀家さんからの「新しい庫裡、楽しみにしているよ」の言葉を励みにしております。今でも難工事なのに昔は重機も無い中、よく今の伽藍を手作業で建てたんだなあ、ただただ頭が下がります。 住職